

No. 944

荒行僧 —神奈川—

神奈川県・鎌倉市は日蓮上人のゆかりの地。身延山久遠寺で100日間の修業を終えた荒行僧が法華太鼓とお稚児さんに迎えられて鎌倉入りしました。身延山での修業は、世界三大荒行の一つといわれ、午前3時の水行で始まり、夜の11時まで一日7回も水をかぶるという大荒行です。

長勝寺に入った荒行僧は、まず境内で最後の水行を行ない身を清めます。しかし、肌を刺すような二月の寒風の中、水を浴びるたびに荒行僧の身体は、みるみるうちに赤味を増していきます。この長勝寺の水行が終わると、鎌倉には春がやってくるのです。

聖火消える —'72札幌オリンピック—

後半に入り、各種目に熱戦をくりひろげる、第11回冬季オリンピック札幌大会——。大会9日目、小雪まじりの大倉山ジャンプ競技場には4万を越す大観衆が集まり、大会のハイライト90メートル級ジャンプを見守った。しかし、70メートル級ジャンプで金・銀・銅を独占し期待された日本勢は総くずれ、笠谷も7位がやっと。111メートルの最長不倒をマークしたボーランドの新鋭フォルトナが優勝した。

また、手稲山回転コースで行なわれたアルペンの最後を飾る男子回転決勝ではスペインの新星、オチャアが優勝、スペインに冬季オリンピック史上初の金メダルをもたらした。

大会最後の競技「世紀の対決」と期待されたアイスホッケー、ソ連対チェコスロバキアの決勝戦。スピードとスリルにあふれた好試合となって観衆をわかせたが、結局5-2で巧みな攻めと堅い守りにまさるソ連が圧勝。オリンピック3連覇をなしとげた。

別れの歌の合唱が流れる真駒内屋内スケート競技場。ブランデージI.O.C会長が、日本語で別れのあいさつ。アイドホールに投影された、聖火が次第に小さくなっていき、ついに消えた。35カ国、1,655人の参加選手は思い出を胸に、名ごり惜しげに手を振る。観衆の拍手がいつまでも続く。オレンジ色の掲示板「4年後、メンバーでまた会おう」を最後に11日間に亘った「雪と氷の祭典」。第11回冬季オリンピック大会は閉幕した。